

豪州の消費者心理はコロナ危機前の水準に回復進む

- 豪州準備銀行(RBA)は6月2日の理事会で、政策金利と豪3年国債利回りの誘導目標を0.25%で据え置く決定を下す。
- 豪州国債市場の機能改善から、国債買い入れは大幅縮小。RBAは当面は緩和的な金融政策を維持する姿勢を示す。
- RBAは豪州の景気悪化が当初予想よりも深刻でない可能性を示唆。新規感染抑制や規制の早期解除などが背景。
- 豪州の消費者心理はコロナ危機前の水準に回復しつつある。消費者心理の正常化は今後の景気回復を後押しへ。

RBAは6月2日の理事会で政策据え置きを決定

豪州準備銀行(RBA)は6月2日の定例理事会で、政策金利(キャッシュレート)および豪3年国債利回りの誘導目標を0.25%で据え置くことを決定しました(図1)。

豪州国債市場が効率的に機能していることから、RBAは5月7日以降は国債買い入れを実施していないものの、「必要があれば国債買い入れを再び増額する用意はある」との姿勢を引き続き示唆しています。

RBAは先行きの金融政策についても、「完全雇用への進展とインフレ率の回復に確信が持てるまでは、政策金利の引き上げは行わない」とのガイダンスを示し、当面は現状の緩和的な金融政策を維持する姿勢です。

景気悪化は当初予想ほど深刻でない可能性

また、RBAは豪州景気の現状判断に関して、「景気悪化は当初予想したほど深刻ではない可能性がある」との見方を示しました。足元では豪州の新型コロナウイルスの新規感染者数が抑制傾向にあることや、従来考えられていたよりも早い段階で隔離規制の緩和が進んでいることが背景にあるとみられています。

消費者心理はコロナ危機前の水準に回復進む

実際、豪州での新型コロナウイルスの新規感染者数がピークを付けた3月下旬には、消費者信頼感指数は65.3へ大幅に悪化したものの、その後は新規感染の終息化に伴って消費者心理の改善傾向が続いてきました(図2)。

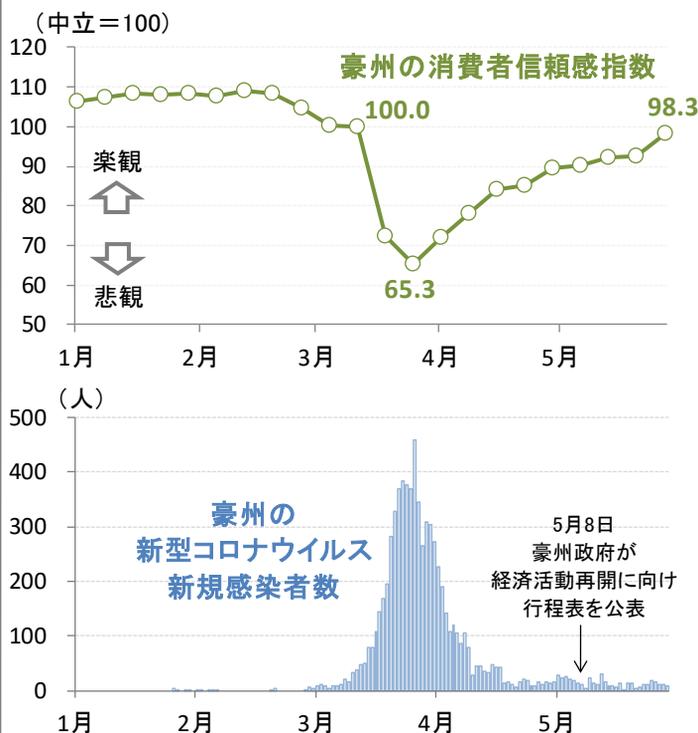
さらに、直近5月31日に終わる週の消費者信頼感指数は98.3まで大きく改善が進み、豪州の消費者心理はコロナ危機が深刻化する以前の水準に回復しつつあることが示されています。消費者心理の正常化は、今後の豪州景気の回復を後押しすると期待されます。

図1: 豪州準備銀行の政策金利と豪州国債利回り



(出所)ブルームバーグ (期間)2020年1月1日~6月2日

図2: 豪州の消費者信頼感とコロナ感染動向



(出所) ANZ・ロイモーガン、豪公共放送ABC

(期間) 消費者信頼感指数: 2020年1月5日~5月31日(週次)

新規感染者数: 2020年1月1日~6月1日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。